

世界遺産暫定一覧表記載資産候補に係る 提案書

資産名称

「富岡製糸場と絹産業遺産群 - 日本産業革命の原点 - 」

平成18年11月29日

群馬県

沼田市

藤岡市

富岡市

安中市

下仁田町

甘楽町

中之条町

六合村

(1) 提案のコンセプト

資産名称・概要

「富岡製糸場と絹産業遺産群 - 日本産業革命の原点 - 」

世界遺産登録は人類にとってかけがえのない文化や自然の遺産を人類全体の力で保護普及しようという事業である。こういった視点で眺めた場合、わが国が全世界に大きな影響を与え、世界史上に特筆されるべき最大の出来事は、それまで欧米に限定されていた産業革命を非西欧圏で初めて達成し、急速な近代化に成功した事であろう。世界中の注目を集めてきたこの「日本の奇跡」についての歴史研究は従来から行われてきた。しかしその過程で生み出された、工場や鉄道、港湾、鉱山などの実際の産業遺産については、調査が始まったのは1990年頃からであり、近年その全貌もほぼ明らかになり保存も進みつつある。

このため各地で各種の産業遺産が再発見されているが、その重要性の一つの目安は、遺産がわが国の独特な産業革命を体現するような特徴を持っているかどうかであろう。その特徴は、国家による強力な指導、西欧からの先進技術導入、軽工業から重工業へという産業革命の進行、輸出による資金の調達であり、さらにその達成がきわめて短期間であった点などである。また産業遺産は一つの工場、一本の鉄道ではなく、ある産業の生産に関する一連のシステム、あるいは生産地域における生産と生業の総体としての産業文化景観として捉えられるべきであろう。

こういった観点からわが国に現存する産業遺産を眺めた場合、これらの特徴の全てを備え、しかもほぼ完全な形で現代まで残っているのが、富岡製糸場である。富岡製糸場は、明治5年(1872)主力輸出品であった生糸の改良を目指して、フランスの近代技術を導入して造られたもので、わが国初の本格的な大「工場」である。富岡製糸場には国家主導による官営工場、フランス製糸技術の積極的導入、模範工場として導入技術の積極的普及、輸出振興をねらった高規格製品の生産などの特徴があり、まさにわが国の産業革命をそのまま形にした産業遺産である。

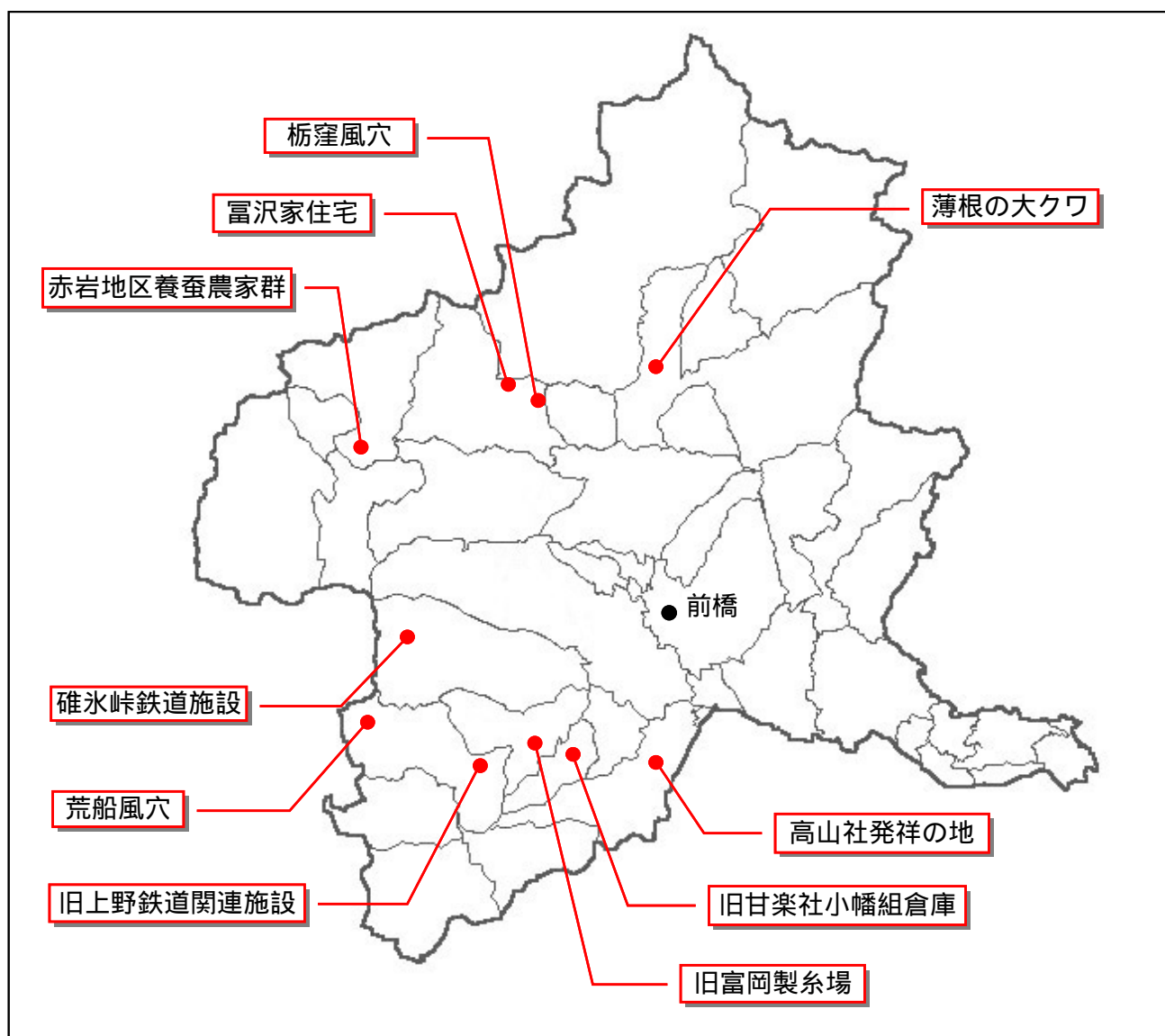
また富岡製糸場などの器械製糸や輸出の振興がもたらした生糸大量生産は、大量の原料(繭)供給体制を要求した。このため、群馬県地域には繭の増産を期した特徴的な養蚕農家が群として出現し、桑畑とともに独特の地域景観を生み出した(赤岩地区養蚕農家群)。またこれに応じて各農家に蚕の原卵を供給する蚕種製造農家や風穴(荒船・栃窪風穴)などの保存施設、加えて養蚕指導のための教育組織(高山社発祥の地)、従来の座繰製糸農家の組合関係の遺構(旧甘楽社小幡組倉庫)、繭や生糸の輸送に関連した鉄道施設や倉庫(碓氷峠鉄道施設、旧上野鉄道関連施設)、絹織物業なども高度に発展した。こういった明治期の発展の基礎は江戸時代に築かれたものであり、最古の養蚕農家(富沢家住宅)、養蚕信仰の象徴(薄根の大クワ)などが保存されている。

こういった一連の動きは、維新後の近代的行政組織「群馬県」の積極的な振興策にも支えられ、群馬県域は全国有数の繭・生糸生産地となり、その先進的な技術は国内各地に伝播した。この結果わが国は1920年代には世界一の生糸輸出国となる一方で、その稼ぎ出した外貨は産業革命を軽工業から重工業へと進展させる原動力となった。また、わが国の輸出した安価良質な生糸は、米国等の近代的な絹産業の発達と相まって、特権階級の衣料の絹を大衆に普及させ、20世紀の世界的服飾文化の開花に貢献した。このようにわが国の近代史ばかりでなく世界的な変化のきっかけとなった富岡製糸場をはじめとする絹産業関係文化遺産を、地域的に連続した生産と生活に関する遺産群と総体で捉えた世界文化遺産の登録が必要であろう。

写真

種別	写真	
養 蚕	 薄根の大クワ	 荒船風穴
	 朽窪風穴	 高山社発祥の地
	 富沢家住宅	 赤岩地区養蚕農家群
製 糸	 旧甘楽社小幡組倉庫	 旧富岡製糸場
流 通	 碓氷峠鉄道施設	 旧上野鉄道関連施設

図面



(2) 資産に含まれる文化財

整理表

名 称	保護(指定・選定)の主体	保護の種別	面 積	要 約
薄根の大クワ	国	天然記念物	目通周囲 7.97m 樹高13.65m	推定樹齢1,500年、ヤマグワでは日本一の巨木である。江戸時代の17世紀にはその存在が知られていた。幹が太く姿が美しく、地元では「養蚕の神」として祀られている。実際に周囲の桑園が霜害にあった際などは、その葉を養蚕に用いた。
荒船風穴	未指定	-	2,500m ²	明治40年建設、蚕の原卵である蚕種を夏季に保存した冷蔵施設。貯蔵能力は110万枚で国内最大、旧上野鉄道を使って全国から送られた蚕種を一時保存した。上屋は撤去され石垣で築いた大規模な貯蔵穴が三基残る。
枳窪風穴	未指定	-	2,500m ²	荒船風穴と同様な施設で、明治43年に蚕種貯蔵を開始、戦後まで使用された。貯蔵枚数は15万枚で群馬県内第二位、吾妻郡内の蚕種貯蔵を一手に引き受けた。貯蔵穴二基と事務所の基礎石組が現存する。町が公有地化済み。
高山社発祥の地	未指定	-	-	全国標準の養蚕法といわれる「清温育」を創設した高山社の発祥地である。高山長五郎が清温育を発案した蚕室、母屋、付属施設と江戸期の長屋門などが石積みの台地上に現存する。
富沢家住宅	国	重要文化財		群馬県内最古の養蚕農家、江戸末期の建築で富沢家は名主をつとめた旧家。木造2階建て、茅葺き、入母屋造りで、桁行23.9m、梁間12.9mと大型。二階は蚕室で出梁造り、茅葺き屋根の正面は切り上げのかぶと造りである。
赤岩地区養蚕農家群	国	重要伝統的建造物群保存地区	約63ha	明治中期を中心とする出梁・出桁形式の養蚕農家群十数棟が良好な状態で現存。さらに、小屋・蔵・石垣等で構成される屋敷地、宗教施設の配置、周囲の農地・森林・山並みなど、江戸時代から現代までの養蚕環境を保持。
旧甘楽社小幡組倉庫	未指定	-		在来的な製糸法である座繰製糸を改良した組合製糸の遺構。小幡・上野などの養蚕製糸農家がつくった甘楽社小幡組の生糸などを保管した二階建てのレンガ倉庫で大正15年建設、養蚕農家の街並みの端に位置する。現在は町歴史民俗資料館として利用。
旧富岡製糸場	国	史跡・重要文化財	55,391.42m ² (史跡)	明治5年明治政府が設立した官営の器械製糸場。同26年の払下後も一貫して製糸施設として使用され、昭和62年に操業停止した。創業当初の建築がほとんど残存し、停止時の機械設備、事務所、女子寄宿舎、社宅群など付属施設も完全に残っている。
碓氷峠鉄道施設	国	重要文化財		明治26年横川、軽井沢に建設された旧碓氷線の遺構。66.7‰の急勾配を克服するためアプト式鉄道を採用。イギリスの技術指導を受けて建設され、基本的に全ての橋梁、隧道、付属施設がレンガで建設された。変電所と旧路線敷が残存。
旧上野鉄道関連施設	未指定	-	レンガ倉庫 1,374.84m ²	旧上野鉄道は明治30年に高崎、下仁田間の軽便鉄道として開業、地域の繭・生糸・蚕種輸送に活躍した。大正末の電化時に日本標準軌に改良されたが、旧路線敷に軽便鉄道用橋梁が、下仁田駅隣接地には繭・生糸用レンガ倉庫2棟が現存する。

構成要素ごとの位置図と写真

名 称：薄根の大クワ

所在地：沼田市町田町飛地 2 0 8 3



全景



近景

名 称：荒船風穴

所在地：甘楽郡下仁田町大字南野牧甲 1 0 , 6 9 0 - 2



石垣1



石垣2

名 称：枳窪風穴

所在地：吾妻郡中之条町大字赤坂 1 4 7 4 - 1 1 , 1 2



石垣1



石垣2

名 称：高山社発祥の地

所在地：藤岡市高山 2 3 7



航空写真



高山家住宅



江戸期の長屋門

名 称：富沢家住宅

所在地：吾妻郡中之条町大道 1 2 7 4



全景



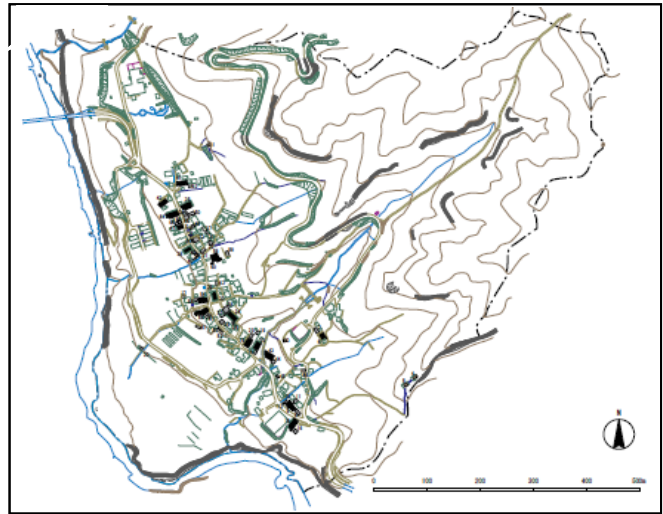
近景



背面

名 称：赤岩地区養蚕農家群

所在地：吾妻郡六合村赤岩



赤岩本道の家並み



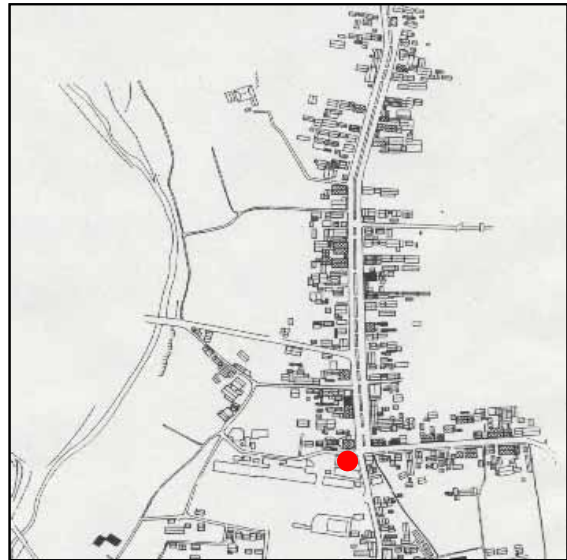
3階建ての養蚕農家



遠景

名 称：旧甘楽社小幡組倉庫

所在地：甘楽郡甘楽町大字小幡



全景

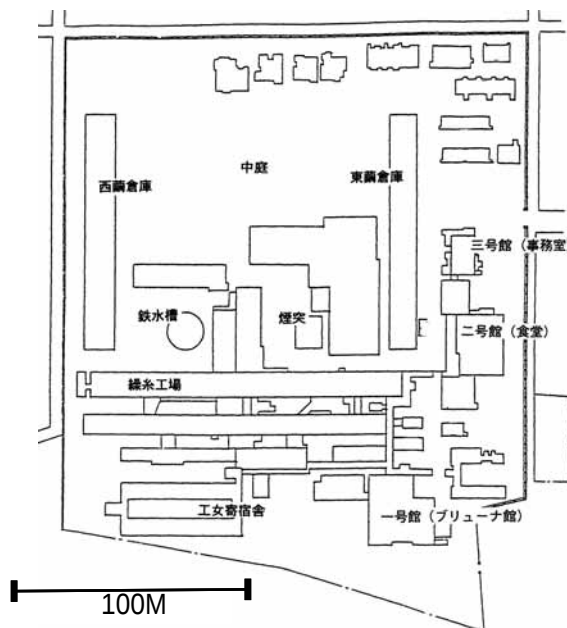


航空写真

名 称：旧富岡製糸場

No 1

所在地：富岡市富岡 1 - 1



東繭倉庫(正面)



東繭倉庫(内部)



西繭倉庫

名 称：旧富岡製糸場

No 2

所在地：富岡市富岡 1 - 1



繰糸場



繰糸場(内部)



鉄水槽

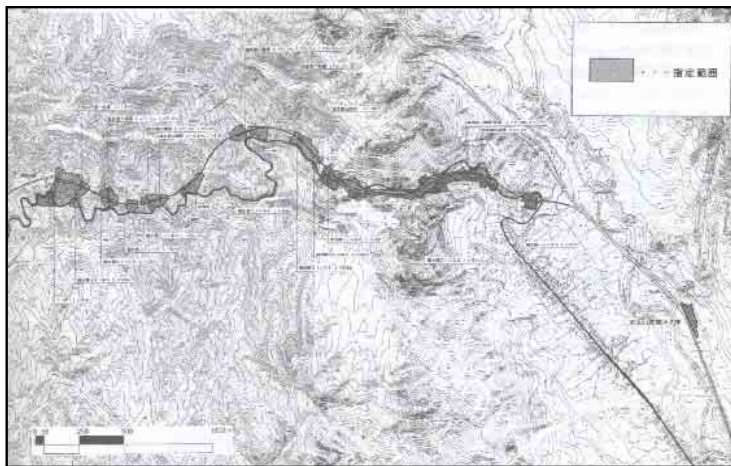


プリーナ館

名 称：碓氷峠鉄道施設

No 1

所在地：安中市松井田町坂本



第3橋梁



第6トンネル



丸山変電所(蓄電池室)

名 称：碓氷峠鉄道施設
所在地：安中市松井田町坂本

No 2



第5トンネルから第3橋梁をのぞむ



航空写真



丸山変電所(機械室)



丸山変電所(内部)

名 称：旧上野鉄道関連施設

所在地：甘楽郡下仁田町



国土地理院発行の2万5千分の1地形図(下仁田)



下仁田駅隣地赤レンガ倉庫



旧上野鉄道鬼ヶ沢橋梁1



旧上野鉄道鬼ヶ沢橋梁2

(3) 保存管理計画

個別構成要素に係る保存管理計画の概要、又は策定に向けての検討状況

構成要素	保存管理計画の概要 / 策定に向けての検討状況
薄根の大クワ	昭和 31 年 5 月 15 日に天然記念物に指定されており、今後、保存管理計画の策定を行う。
荒船風穴	今後、史跡の指定を受け、保存管理計画の策定を行う。
栃窪風穴	今後、史跡の指定を受け、保存管理計画の策定を行う。
高山社発祥の地	今後、史跡あるいは重要文化財の指定を受け、保存管理計画の策定を行う。
富沢家住宅	昭和 45 年 6 月 17 日重要文化財に指定されており今後、保存管理計画の策定を行う。
赤岩地区養蚕農家群	平成 18 年 2 月、六合村教育委員会が「六合村赤岩伝統的建造物群保存地区保存計画」を策定。同 7 月 5 日に重要伝統的建造物群保存地区に選定。
旧甘楽社小幡組倉庫	今後、史跡の指定あるいは伝統的建造物群保存地区の構成要素として重要伝統的建造物群保存地区の選定後、保存管理計画の策定を行う。
旧富岡製糸場	平成 17 年 7 月 14 日史跡、平成 18 年 7 月 5 日重要文化財の指定を受け、富岡市教育委員会が委員会を設置し「旧富岡製糸場保存管理計画」を作成中。
碓氷峠鉄道施設	平成 5 年 8 月 17 日、平成 6 年 12 月 27 日に重要文化財の指定を受け、平成 8 年 9 月、松井田町教育委員会（現安中市教育委員会）が「重要文化財碓氷峠鉄道施設保存管理計画書」を策定。
旧上野鉄道関連施設	今後、重要文化財の指定を受け、保存管理計画の策定を行う。

資産全体の包括的な保存管理計画の概要、又は策定に向けての検討状況

資産全体の名称	富岡製糸場と絹産業遺産群 - 日本産業革命の原点 -
実施機関	内容等
群馬県	将来的に世界遺産に該当すると想定される、構成資産の包括的な保存管理計画を策定する一助とすることを目的に、群馬県内の養蚕・製糸・織物業を中心とした近代産業遺産の残存状況と観光的な側面から見た場合の課題や問題点等の洗い出しを主眼とする検討を実施した。 実施時期は平成16年12月～17年3月であり、世界遺産光プロジェクトと名付けた検討委員会を設置した。委員は一般公募、関係機関、関係市町村、庁内関係部局の担当者等で合計17名とし、現地調査、検討会議等を数回実施し報告書をまとめた。報告書『世界遺産"光"プロジェクトからの提言』は本文、別冊で50数ページあり、平成17年3月の提出後に一般に公開した。 さらに、今後暫定リストに登載後は、構成資産全体の包括的な保存管理計画の策定を行いたい。

資産と一体をなす周辺環境の範囲、それに係る保全措置の概要又は措置に関する検討状況

構成要素	周辺環境の範囲 / 保全措置の概要、検討状況
薄根の大クワ	周囲は畑地で一部が宅地となっている。今後は、構成資産と一体をなす周辺環境に係る保全措置の方法を積極的に検討していきたい。
荒船風穴	周囲は杉を主体とした民有の山林である。今後は、構成資産と一体をなす周辺環境に係る保全措置の方法を積極的に検討していきたい。
栃窪風穴	周囲は杉を主体とした国有林で、当該資産の範囲 2,500 m ² は町有地化された。今後は、構成資産と一体をなす周辺環境に係る保全措置の方法を積極的に検討していきたい。
高山社発祥の地	周囲は山林と畑地である。今後は、構成資産と一体をなす周辺環境に係る保全措置の方法を積極的に検討していきたい。
富沢家住宅	周囲は山林であり、旧の街道が庭先を通過する。今後は、構成資産と一体をなす周辺環境に係る保全措置の方法を積極的に検討していきたい。
赤岩地区養蚕農家群	周囲は山林であり、今後は、構成資産と一体をなす周辺環境に係る保全措置の方法を積極的に検討していきたい。
旧甘楽社小幡組倉庫	周囲は宅地であり、本件の北方に小幡地区養蚕農家群が路村形状で広がっている。今後は、構成資産と一体をなす周辺環境に係る保全措置の方法を積極的に検討していきたい。
旧富岡製糸場	周囲は昭和前期の家屋を中心とした商店街であり、平成9年に土地区画整理事業施行区域が決定され、14年に事業認可された。しかし市は富岡製糸場の文化財指定をきっかけに17年にまちづくりの方針転換を行い、歴史的街並みの保全を目指した新計画を策定した。また、同年に市は景観行政団体になり、今後についても、構成資産と一体をなす周辺環境に係る保全措置の方法を積極的に検討していきたい。
碓氷峠鉄道施設	周囲は杉を主体とした国有林である。今後は構成資産と一体をなす周辺環境に係る保全措置の方法を積極的に検討していきたい。
旧上野鉄道関連施設	橋梁の周囲は山林である。倉庫の周囲は上信電鉄下仁田駅の構内である。今後は、構成資産と一体をなす周辺環境に係る保全措置の方法を積極的に検討していきたい。

(4) 世界遺産登録基準への該当性

資産の適用種別及び世界文化遺産の登録基準番号

- ・適用種別 産業遺産
- ・登録基準への該当番号 、 及び

）ユーラシア大陸の西端で起きた産業革命や近代化といった文明的価値が、工場という形式で地理的に最遠の極東に伝播され、現地で本格的に受容された最初の例である。しかも技術は現地の在来技術と混合され、制度は従来文化の中に包摂される中で両者が複合して、その後も継続的にわが国やアジアの産業発展や社会の近代化のモデルとなった。この点において富岡製糸場は産業革命という世界史的な価値の東西交流の原点である。さらにこの伝播の結果、日本は生糸の生産で世界一となり、その生産する安価で高品質な生糸は稀少繊維であった絹の大衆化を世界規模で促進し、20世紀の服飾文化の発展をもたらした。

）富岡製糸場は、産業革命という人類史上の重要な変化の象徴である近代的「工場」が非西欧圏において非西欧民族によって自律的に建築された記念碑的建造物である。また、この時期に出現した養蚕農家は近代産業と伝統生活の融合により生まれた独特の形式の民家であり、その民家群が形成する景観はわが国独特の養蚕文化景観を出現させた。

）蚕という昆虫の飼育に特化した民家群と桑畑は、平地のみならず、山間傾斜地や河川敷にも広がり、地形に応じた独特な土地利用景観を現出させた。しかし全国で養蚕が衰退する中で六合村赤岩地区などに残る養蚕農家群とその景観は非常に貴重なものになりつつある。

真実性、完全性の証明

富岡製糸場と絹産業遺産群を構成する資産のすべてが基本的に、その施設が本来持つべき目的のために該当する時代に、当該時代の技術と資材によって建築され、あるいは現出した景観である。一部の施設に見られる、後世における用途変更に伴う増改築なども、中核部分の文化財的価値を損なったり、偽物として作り直された資産はない。これらについてはほとんどの場合、建設や修理、創業等に関する文書、写真等によって証明できる。

また富岡製糸場については、1872年の創業時から継続的に維持改良されてきた工場設備が1987年の操業停止段階で、全ての生産設備と従業員の寄宿や福利厚生、また管理事務にかかる設備が書類を含めて完全に残存する。また、本遺産群には製糸場に原料繭を供給した養蚕農家群、蚕種製造、養蚕教育、繭や生糸の輸送設備まで関連の大部分の遺産が網羅されている。

類似遺産との比較

富岡製糸場は、我が国最古の本格的工場であり、国家が創った30数カ所の官営工場中で最大規模、かつ現在でも生産設備がほぼ完全に保存される唯一の施設である。また、関連する遺産群は、軽工業、特に絹業生産の生産工程を、原料生産から製品まで総体として網羅しており、産業遺産が地域的、生産関連的まとまりをもって存在する希少な例と考えられる。

世界的に見た場合、世界遺産に登録された繊維産業関係の遺産は、英国のニューラナーク、ソルティア、ダーベント渓谷の工場群、イタリアのクレスピ・ダッタなどが知られる。ダーベント渓谷は、水車動力供給源のダーベント川を中心にした工場群を地域でとりまとめたもので、本件と類似性があるが、他は往時の理想工場と従業員用街区を構成要素とした単体である。

また本件の持つこれまで登録された世界文化遺産にない特徴は、1)「絹」を主題とした初めての世界遺産。2)構成要素が絹製品の製造工程を原料生産から製品まで一体的に取り込んでいる産業遺産群。3)アジア初の本格的な近代産業遺産群、などの点である。